

サステナビリティマネジメント

サステナビリティの考え方及び推進体制

サステナビリティの考え方

三菱電機グループは、事業を通じた社会課題の解決という原点に立ち、サステナビリティの実現を経営の根幹に位置づけています。社会からの期待や要請・意見を活動に反映させ、社会や環境に与えるネガティブな影響を最小化し、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいます。

サステナビリティの実現に向けた推進事項

サステナビリティの実現に向け、以下の4点を推進事項としています。

価値創出	事業成長と社会の持続可能性を両立させる社会課題解決型事業の創出・発展
基盤強化	三菱電機グループの持続的成長を支える、環境、社会、ガバナンスを始めとした経営基盤強化
リスク管理	長期的な社会や環境の変化に対するリスクの予測、及び企業経営に与える影響の抑制又は最小化
取組みの開示と対話	透明性の高い情報開示を通じた、社会・顧客・株主・従業員を始めとするステークホルダーとのコミュニケーションにより、社会からの期待や要請・意見を企業経営に反映

サステナビリティ推進体制

三菱電機グループは、三菱電機の執行役会議から委嘱を受けたサステナビリティ委員会で、サステナビリティの取組みに関する方針・計画を決定しています。サステナビリティ委員会はサステナビリティを担当する上席執行役員が委員長を務め、コーポレート部門で機能別の役割を担当するチーフオフィサーのほか、事業部門の執行役等で構成しています。

サステナビリティ委員会での議論の内容は、執行役会議及び取締役会に報告されます。取締役会では、サステナビリティ経営を三菱電機グループの「重要議題」とし、リスク管理及び収益機会としての観点から十分に議論するとともに、執行役のサステナビリティへの取組み状況についても監督しています。サステナビリティの取組み推進については、執行役の報酬指標の一つになっており、サステナビリティ・ESG関連領域等非財務事項での業績指標達成度はインセンティブ報酬へ反映されています。

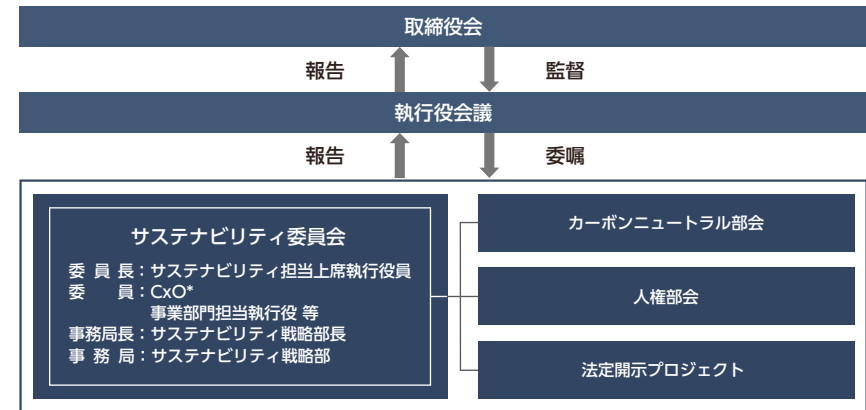
複数部門にかかわるサステナビリティ課題に対しては、サステナビリティ委員会の下に設置した部会やプロジェクトで取り組んでいます。倫理・遵法、品質の確保・向上、環境保全活動、社会貢献活動、

ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションなどの具体的な取組みについては、担当部門が責任を持って推進しています。

サステナビリティ委員会で定めた方針・計画や部会・プロジェクト等で推進する具体的な取組みについては、社内各部門・国内外関係社に共有し、グループ全体で連携して課題解決に取り組んでいます。

なお、2024年4月には、サステナビリティの実現に向けて体制を強化しました。従来のサステナビリティ推進、環境推進、DE&I等を統合するとともに、社会課題を解決する新たな事業創出の機能を持つサステナビリティ・イノベーション本部を新設しました。

会議体名称	目的、主な議題等
サステナビリティ委員会	三菱電機グループにおけるサステナビリティの取組みに関する方針、計画の議論、情報共有(四半期毎に開催)
カーボンニュートラル部会	三菱電機グループのカーボンニュートラルに関する取組みの推進
人権部会	三菱電機グループにおける人権に関する取組みの改善、課題解決等の迅速な対応
法定開示プロジェクト	グローバルなサステナビリティ法定開示に対応するための活動の推進



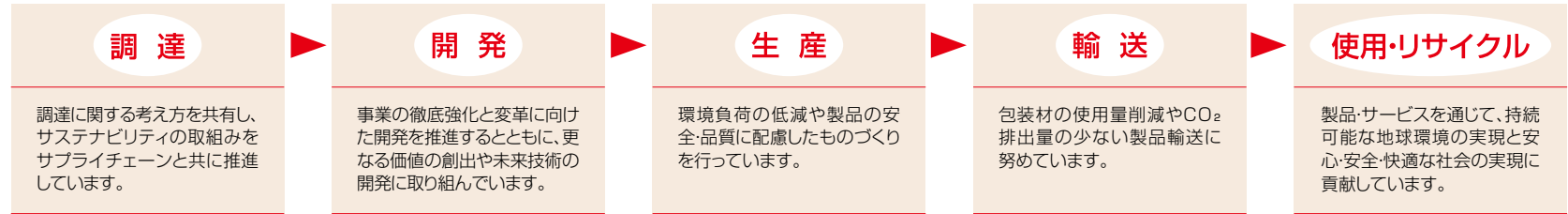
* 機能別の役割を担当するチーフオフィサー

サステナビリティ推進体制

バリューチェーンにおける取組み

三菱電機グループは、身近な家電製品から国家規模のプロジェクトや人工衛星まで、多岐にわたる事業によって社会に影響を与えており、バリューチェーンも拡大しています。それらを認識し、マテリアリティ(重要課題)を中心に、バリューチェーン全体でサステナビリティの取組みを推進しています。

バリューチェーンにおけるマテリアリティの取組み



事業を通じた社会課題解決



持続可能な地球環境の実現



安心・安全・快適な社会の実現

◎サステナビリティに貢献する調達

◎イノベーションと統合ソリューションによる「脱炭素社会」の実現

生産時CO₂排出量の削減

新製品「製品使用時のCO₂排出量」の改善

バリューチェーン全体での温室効果ガス排出量実質ゼロを目指す

再生プラスチックの使用

◎「サーキュラーエコノミー」実現への貢献

水の有効利用

主要サプライヤーに対するCSRアセスメント運営

廃プラスチックの有効利用

◎事業を通じた安心・安全、インクルージョン、ウェルビーイングの実現

安心・安全

インクルージョン

ウェルビーイング

経営基盤強化
持続的成長を支える



あらゆる人の尊重

- ◎国際規範に基づく人権の取組み定着と責任あるサプライチェーンの実現
- ◎多様・多様な人材が集い、活躍する環境の実現



コーポレート・ガバナンスとコンプライアンスの持続的強化

- ◎取締役会の実効性の向上
- ◎品質不適切行為の再発防止
- ◎"Always Act with Integrity"の真の理解と浸透
- ◎サイバーセキュリティ成熟度の向上



サステナビリティを志向する企業風土づくり

- ◎従業員によるサステナビリティの理解と実践
- ◎社内外のステークホルダーとのコミュニケーションの推進

ステークホルダーとのコミュニケーション

ステークホルダーエンゲージメントの考え方

三菱電機グループでは、ステークホルダーの皆様からいただく要請や意見は、持続可能な社会の実現に向けた取組みを推進するために、非常に重要であると考えています。

そのため、あらゆる機会をとらえて様々なステークホルダーとコミュニケーションをとっており、皆様からいただいた意見等は、サステナビリティ委員会を通じて経営層も含めて社内で共有し、様々な取組みに反映しています。



三菱電機グループのステークホルダー

三菱電機グループのサステナビリティに関するアンケートの実施

三菱電機グループのサステナビリティの取組み及び「サステナビリティレポート2023」に対して、国内のステークホルダーの皆様を対象にアンケート調査を行いました。総合的な評価に加え、「ステークホルダーとの対話・共創への期待」に関する質問では、自社の技術や知見から新しい価値を創出しようとする三菱電機グループと法人・個人のお客様との共創をはじめ、事業所周辺の地域社会や、学術機関・研究機関、株主・投資機関とのコミュニケーションへの期待が寄せられていることがわかりました。また、三菱電機グループと従業員との対話についても引き続き関心が寄せられています。

【アンケート実施時期】

2023年12月

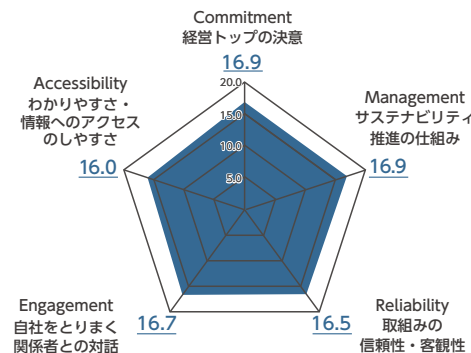
【アンケート対象者】

日本在住の一般男女・
15歳以上 600名
(サステナビリティへ
関心が高い方々)

総合評価

83.0/100点

(各20点満点)



従業員への浸透

三菱電機グループでは、従業員のサステナビリティへの理解を促し、事業を通じた社会課題解決にグループ一丸となって取り組んでいくため、様々な社内浸透策を実施しています。主な施策は次のとおりです。

主な社内浸透策

対象	取組み内容
経営層	●サステナビリティ講演会の開催 役員やサステナビリティ委員会の委員等に対して、サステナビリティに関する社会的視点の変化や最新の業界動向について、有識者からお話をいただく講演会を開催しています。
国内関係会社	●三菱電機グループ総務部長会議でのサステナビリティの情報共有 毎年実施する国内関係会社の総務部長によるコンプライアンス等に関する会議の中で、三菱電機グループに共通するサステナビリティの方針や取組み等についての情報を共有しています。
海外関係会社	●各地域でのサステナビリティ推進活動 三菱電機グループの海外関係各社でも、サステナビリティを推進するための委員会を運営するなど、それぞれの地域に則した活動を行っています。
サステナビリティ担当者	●サステナビリティ担当者研修の実施 三菱電機の各事業所のサステナビリティ担当者と国内関係会社のサステナビリティ担当者を対象に、サステナビリティの基本的な考え方、社会からの要請、三菱電機グループのサステナビリティの取組みについて学ぶ研修を実施しています。
グループ従業員	●研修や社内報を通じたサステナビリティの理解促進 三菱電機や国内外関係会社の従業員がサステナビリティについて学習できるよう、eラーニングの教材を展開しています。また、国内外の関係会社に配布している社内報で、日本語と英語にてサステナビリティに関する取組みを紹介しています。
新入社員	●サステナビリティ研修の実施 三菱電機の新入社員に対するサステナビリティの研修を実施しています。経営の根幹に位置付けたサステナビリティへの理解を深め、日々の業務において倫理・遵法を徹底し、品質や環境問題などに取り組むことの重要性を認識する機会としています。

サステナビリティ教育に関する従業員意識サーベイ

SDGsを含めたサステナビリティに関するeラーニング等の教育の後、従業員一人ひとりの理解浸透度を意識サーベイで確認する等、様々な形で従業員への浸透を図っています。

経営理念に沿った業務の実施

67%

コミュニケーション状況

事業活動を行う上で、ステークホルダーとの強い信頼関係は必要不可欠です。ステークホルダーに三菱電機グループをご理解いただくとともに、期待や要請、ご意見を伺う多様な機会を設けています。

主なステークホルダー	責任と課題	主な窓口となる部門	主なコミュニケーションの機会
顧客 個人、法人のお客様	<ul style="list-style-type: none"> お客様満足度の向上 商品の安全性、品質の確保 お客様への対応、サポート 	<ul style="list-style-type: none"> 営業部門 品質部門 	問い合わせ窓口（家電：お客さま相談センター、ビルシステム：情報センター等）、営業活動、ウェブサイト、ショールーム、イベント、展示会、お客様アンケート、メディア・CM
従業員 三菱電機グループにかかわる労働者全般	<ul style="list-style-type: none"> 労働安全衛生の確保 人権の尊重 人財育成 多様性の尊重 	<ul style="list-style-type: none"> 人事部門 サステナビリティ推進部門 	ホットライン、イントラネット、社内報、各種研修、経営層と従業員のミーティング、従業員意識調査
政府・自治体・業界団体 三菱電機グループの事業活動にかかわる政府機関、自治体、業界団体	<ul style="list-style-type: none"> 法令遵守 規制への対応 政策への提言 	<ul style="list-style-type: none"> 渉外部門 	各種審議会・委員会への参画、業界団体・経済団体の活動への参画
NGO・NPO 三菱電機グループの社会・環境面にかかわるNGO・NPO、市民団体等	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会への貢献を通じた助成とパートナーシップ 社会・環境面の対話 	<ul style="list-style-type: none"> サステナビリティ推進部門 	社会貢献活動（基金、財団、ボランティア活動）、社会・環境面の対話
取引先 原料・部品の調達先であるビジネスパートナー	<ul style="list-style-type: none"> 公正な取引の徹底 サプライチェーンにおけるサステナビリティへの取り組み推進 	<ul style="list-style-type: none"> 資材部門 	サステナビリティに関する調達説明、BCPセミナー、公正な取引先選定評価結果による打合せ
地域社会 事業所周辺地域	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献活動の4つの活動分野（社会福祉、科学技術、地球環境保全、文化芸術・スポーツ）への貢献 	<ul style="list-style-type: none"> サステナビリティ推進部門 	本業での貢献、社会貢献活動（基金、海外財団、ボランティア活動）、大学への助成、工場見学、工場開放イベント
株主 三菱電機グループの株式を直接・間接に保有する株主・投資機関、投資家等	<ul style="list-style-type: none"> 企業価値の向上 適正な利益還元 情報開示 ESG投資への対応 	<ul style="list-style-type: none"> IR・SR部門 	決算説明会（年4回）、株主総会（年1回）、サステナビリティ説明会（年1回）、IRイベント／個別ミーティング、ウェブサイト（IR資料室）、取材対応、株主通信
学術機関や研究機関	<ul style="list-style-type: none"> イノベーション創出への協働 共同研究 	<ul style="list-style-type: none"> 研究開発部門 	産学連携研究
将来世代	<ul style="list-style-type: none"> 教育機会の提供 	<ul style="list-style-type: none"> サステナビリティ推進部門 海外財団 	問い合わせ窓口、社会貢献プログラム、授業支援、工場見学、財団を通じた助成、イベント、METOA

2023年度の取組み例

●地域社会

小学生を対象にした「デザイン思考」による授業支援

統合デザイン研究所では、小学生向けのワークショップ型授業を教育機関とともに行っています。地域社会とのコミュニケーションを通じて多様な考え方に触れることで、我々自身も新しい気づきを得られます。小学生が身近な課題として取り組めるよう、ゴミ問題や町の活性化等、地域の課題をテーマに2021年度より継続し、2023年度は千葉県印西市の原山小学校で実施しました。



授業で活用しているのは「デザイン思考」という方法です。現状を観察・理解し、何が解決すべき課題かを考え、さらにその課題を解決するために皆で

「デザイン思考」による授業支援の風景
(千葉県印西市 原山小学校)

議論しながらアイデアの検討を進めます。未来の主役である子どもたちがこの授業を経験し、自分達の未来を自ら考え、より良くしたいという気持ちを持つことが、サステナブルな社会の実現につながるとの考えから、この活動を続けています。

●従業員

経営層と従業員の直接対話

三菱電機では、経営層と従業員が双方向での意見交換を行う対話集会を各事業所で開催しています。2023年度は、小規模単位のタウンホールミーティング形式で455回実施し、従業員からの多彩な意見が様々な改革に活かされています。